

ファッション分野における政策的支援に関する研究
-国内外の産業・文化政策を中心に-
Policy Process of Fashion Valuing

中村 仁^{*1+}, 富吉 賢一^{*2+}, 中川 勉^{*3+}, 田中 秀幸^{*1+}
Jin Nakamura^{*1+}, Kenichi Tomiyoshi^{*2+}, Tsutomu Nakagawa^{*3+} and Hideyuki Tanaka^{*1+}

*1 東京大学大学院情報学環 東京都文京区本郷 7-3-1
The Interfaculty Initiative in Information Studies, The University of Tokyo,
7-3-1 Hongo Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

*2 経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

*3 外務省
Ministry of Foreign Affairs

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract : Our research aims to clarify what kind of support the administration does to the fashion culture and industry. The collection, hearing, and the inspection, etc. of material were executed at current year. We have written 6 papers relevant to our research on the journals and proceedings of international conferences. As a result, Fashion policy need to not only industrial policy, but also regional development.

I 緒言

本研究は、ファッション(ハイカルチャー・ポップカルチャーを含む)に対する行政による政策的支援がどのように実施されてきたのか、という問題を解明するための基礎準備研究として、主に産業政策・文化政策の視点から戦後国内におけるファッションに対するこれまでの政策的支援に関する資料の発見・収集及びヒアリングを実施し、検討を行い海外の事例と比較することで、それぞれの支援が果たしてきた役割と効果を明らかにすることを目的とする。

本年度は、前年度に実施された基礎作業としての資料の収集並びに主に資料化されていない情報の資料化、視察・ヒアリング等による情報収集によって得られた成果を活かし、本年度得られた資料やインタビューの成果をもとに、最終報告に先行して成果を公表した。また、引き続き情報収集並びに資料化を行い、最終年度となる来年度の方向性に関する検討や本年度得られた学術情報の外部への公表について検討を行った。さらに、学会における研究会を共催するなど、本研究で得られた成果の共有に努めた。

II 研究活動

*1) jin@iii.u-tokyo.ac.jp

本年度は以下に上げる三つの方法で研究並びに成果の公開等を行った。第一に、昨年度に引き続き本年度新しく刊行されたファッション政策関連資料等を中心とした、公刊資料収集による情報収集を実施した。

第二に、関連する学会への参加、インタビュー等を通じて本研究に関連する情報の収集を行った。情報収集のため参加した学会等については情報社会学会・繊維製品消費科学会(6月)、世界コスプレサミット(8月)、East Asian Pop culture Association、國學院大学渋谷学研究会(9月)、Sixth International Knowledge Management for Organizations Conference 2011(9月)、Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO 2012-13 A/W・日本シミュレーション&ゲーミング学会、ファッションビジネス学会、社会・経済システム学会(10月)「メディアアートと創造都市」国際シンポジウム(11月)、ゲーム学会(12月)、第19回開拓動漫祭・台北国際書展・台北国際電玩展(2月)、International Academy of Business and Economics(3月)等である。

第三に、インタビュー等による情報の収集と資料化を行った。これらは、何らかの形で資料化されていない情報を中心に、新たな研究資料を作成する試みである。本年度は、斎藤和弘氏(編集者)・伊藤美恵氏(エファップ・ジャポン学長)・富吉賢一氏(経済産業省製造産業局繊維課長)・木村達央氏(ジャパン・イマジネーション代表取締役会長)・山崎賢二氏(ジャパン・ファッションウィーク推進機構事務局長)・大沼聡氏(文化服装学院学長)・越智武臣(株式会社東急モールズデベロップメント代表取締役会長)・森田謙蔵氏(道玄坂共同ビル株式会社専務取締役)・平野睦氏(株式会社ナードアンドギークス代表取締役社長)にご協力を頂いた。これらのインタビュー等については文字データ化することにより共用可能な資料とすべく現在作業を進めているところである。

III 成果の公表

下記の国際会議・国内学会・学術論文誌並びにシンポジウム等の開催において成果の一部を公表した。

①国際会議・国内学会等での成果の公表

成果発表として、情報社会学会(6月)、East Asian Pop culture Association、(9月)、Sixth International Knowledge Management for Organizations Conference 2011(9月)、日本シミュレーション&ゲーミング学会・社会・経済システム学会(10月)、デジタルゲーム学会(2月)、International Academy of Business and Economics(3月)において、口頭発表並びに予稿集によって本研究で得られた成果の一部を公表した。

②学術雑誌等による成果の公表

学術論文による成果の公表として、情報社会学会誌・社会・経済システム・International Journal of Business Research 及び Proceedings of Sixth International Knowledge Management in Organizations Conference, Proceedings of IABE-2012 Key West-Winter Conference に査読付き国際会議プロシーディングスへ論文を掲載し、成果の一部を公表した。

②シンポジウム等の開催

また、11月12日(土)にコンテンツ文化史学会 2011年第2回例会「コンテンツとファッション-装いの文化史をめぐって-」を本共同研究と共催、服飾文化共同研究拠点/文化学園大学文化ファッション研究機構の共催により開催した。同学会はアニメ・ゲーム等を主に扱うコンテンツに関する学会であるが、広義のコンテンツのひとつとしてファッションを扱う内容となった。

発表者は青木淳子氏(東京大学大学院学際情報学府博士後期課程)が「近代皇族ファッションのイメージ-軍服とドレス」、中村仁氏(東京大学大学院情報学環特任講師)が「ファッションと行政」、渡辺明日香氏(共立女子短期大学生生活科学科准教授)が「<ファッション>のオルタナティブとしてのストリートファッション」をそれぞれ担当した。なお同例会は文化学園ファッションリソースセンター視聴覚講義室で開催され、約80名の出席者を集めた。

コンテンツ文化史学会 2011年 第2回例会
JACHS Regular Meeting 86

コンテンツとファッション

—装いの文化史をめぐって—

共催：共同研究「ファッション分野における政策的支援に関する研究」
後援：服飾文化共同研究拠点/文化学園大学文化ファッション研究機構

2011年11月12日(土)
12時開場、13時開演

場 所：
文化学園ファッションリソースセンター-視聴覚講義室
東京都目黒区中目黒3丁目2番1号 文化学園 視聴覚講義室(1階地下1階)

発 表：
青木淳子 東京大学大学院学際情報学府博士後期課程
「近代皇族ファッションのイメージ-軍服とドレス」
中村仁 東京大学大学院情報学環特任講師
「ファッションと行政」
渡辺明日香 共立女子短期大学生生活科学科准教授
「<ファッション>のオルタナティブとしてのストリートファッション」

資料代：
500円(会員は無料)

※ 参加費は500円です。会場までの公共交通のフェイライドにて参加ください。
※ 会場はエレベーターが利用できません。ご留意ください。
※ 会場は地下1階です。お入りください。お入りください。

コンテンツ文化史学会
事務局：〒104-8504 東京都目黒区中目黒 3-4-4 目黒区立総合研究センター 4階 404号室
連絡先：03-3463-1111 (受付時間 10:00-17:00) <http://www.contenthistory.org>

V 総括

本年度の研究成果から、ファッション政策においては産業政策としての川上から川下までの支援のみならず、商業集積地域の形成など地域に対する支援の重要性が明らかになった。特に、デザイン分野で行われている創造都市に関する一連の事業は、ファッション分野についても適用可能性があることが示された。2012年度以降は本年度の成果を踏まえ、国内政策に関するさらなる研究を推進すると共に、海外におけるファッション政策についても研究を行う。

また、これらの過程で得られた研究成果を随時国際会議及び学会、学術雑誌等で公開することで、共同研究成果の社会への還元を狙う。

文献

1 学術論文

- ① **中村仁**「共管競合する政策領域における行政組織の行動に関する一考察—コンテンツ産業への資源配分を事例として—」『コンテンツ文化史研究』コンテンツ文化史学会(採択済)
- ② **Jin Nakamura**, “HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FOR HIGH-RANKING OFFICIALS IN CENTRAL GOVERNMENT – CASE STUDY OF THE JAPANESE GOVERNMENT–”, *International Journal of Business Research*, Vol.12-No.1, 09 March 2012.(Accepted)
- ③ **中村仁**「ファッションビジネスの特徴とその可能性」『社会・経済システム』第32号, 社会・経済システム学会, 2011.10.29, 167-173.(査読有)
- ④ **中村仁**「オピニオン・リーダー層の変化と消費者行動—「渋谷系」ストリート・ファッションを事例として—」『情報社会学会誌』第6巻第1号, 情報社会学会, 2011.06.18, pp.115-124.(査読有, 研究ノート)

2 査読付国際会議論文

- ① **Jin Nakamura**, Yuhsuke Koyama, Nobushige Hichibe “DIVISION OF LABOR AND COLLABORATIVE SYSTEMS IN CREATIVE INDUSTRIES: A CASE STUDY OF THE JAPANESE PC GAME INDUSTRY-”, Proceedings of IABE-2012 Key West-Winter Conference, International Academy of Business and Economics, 09 March 2012.(Accepted)
- ② **Jin Nakamura**, “KNOWLEDGE MANAGEMENT IN JAPANESE FASHION BUSINESS -The Relationship between Pop Culture Works and Fashion-“, Proceedings of Sixth International Knowledge Management in Organizations Conference, Sixth International Knowledge Management in Organizations Conference, 27 Sep 2011, p.1-14.(peer reviewed)

3 国際会議発表

- ① **中村仁**「高度専門化した広域的商業集積地の形成」『社会・経済システム学会第 30 回大会予稿集』社会・経済システム学会第 30 回大会, 社会・経済システム学会, pp.1-4.
- ② 兼田敏之・小山友介・**中村仁**・林恵子・池本将章・勝間大輔「秋葉原地区回遊行動研究プロジェクト シミュレーション&ゲーミング研究への意義とオープン・プロブレム」, 『日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会論文報告集 2011 年秋号』日本シミュレーション&ゲーミング学会 2011 年秋季全国大会, 日本シミュレーション&ゲーミング学会, 2011.10.22, pp.51-52.
- ③ **Jin Nakamura**, “Why Does “Shibuya” become a Major Fashion City in Japan?” East Asian Popular Culture Association 2011 Inaugural Conference, East Asian Popular Culture Association, 2 SEP 2011, pp.75.
- ④ Yuhsuke Koyama, Hidetoshi Okayasu, **Jin Nakamura**, Nobushige Hichibe, Hideyuki Tanaka and Hiroshi Deguchi “General Survey of Comic Market” East Asian Popular Culture Association 2011 Inaugural Conference, East Asian Popular Culture Association, 2 SEP 2011, pp.64.
- ⑤ **Jin NAKAMURA**, “Feature and the possibility of fashion business of Japan”, The Sixties-National PCA/ACA Conference, Popular Culture Association / American Culture Association, 20-23 Apr 2011.
- ⑥ **Jin NAKAMURA**, “Japanese popular culture Festival: The Comic Market”, The Sixties-National PCA/ACA Conference, Popular Culture Association / American Culture Association, 23 Apr 2011.

4 招待講演(一般)

- ① **中村仁**「ファッションビジネスの特徴とその可能性」『平成 23 年度知財センター講演会』文化学園, 招待講演, 2011.11.30.